

雅 樂



この冊子は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。



陵王



納曾利



(注) 表紙絵は御神楽人長（舞楽図より）

雅 樂

1 雅樂とは

「雅樂」とは、元来は「俗樂」に対する言葉で、正統の音楽を意味します。この意味で雅樂と呼ばれる音楽は中国や朝鮮にもありましたが、その音楽そのものは日本の雅樂とは全く別のものです。

日本の「雅樂」は、日本古来の歌と舞、古代のアジア大陸から伝來した器楽と舞が日本化したものおよびその影響を受けて新しくできた歌の総体で、ほぼ10世紀(平安時代中期)に今日の形に完成した日本の最も古い古典音楽であります。

主として宮廷、貴族社会、有力社寺などで行われてきましたが、現在では宮内庁の楽部が伝承する雅樂がその基準となっています。

2 雅樂の種類

雅樂には、その起源系統によって「國風歌舞」、「大陸系の樂舞」および「歌物」の三つの種類があります。

(1) 國風歌舞（神樂、東遊など）

日本古来の原始歌謡とこれに伴う舞に基づき平安時代に完成した歌と舞です。**神樂、東遊、大和歌、久米舞**などがあります。「上代歌舞」、「日本固有の歌舞」などとも呼ばれていますが、平安時代中期に今日の形に完成したものであり、また、大陸系の樂舞の影響を受けており、とくに伴奏に外来楽器の篠篥を採り入れたことは注目すべき点です。

(2) 大陸系の樂舞（唐樂と高麗樂）

5世紀頃から9世紀初までの約400年間にわたって朝鮮、中国などから伝來したアジア大陸諸国の音樂舞踊に基づき平安時代に完成した器楽と舞です。

大和時代から奈良時代までは種々の外来樂舞はそれぞれ渡來した時の形で演奏されていましたが、平安時代には次第に整理統合され、日本化されてゆきます。すなわち、まず、その伝来の系統により「左方」と「右方」とに分けてその樂器編成が区別されました。左方は中国、中央アジア、インド方面に起源を有する樂舞に基づくもので、これを**唐樂**と呼び、右方は主として朝鮮、満州方面に起源を有する樂舞に基づくもので、これを**高麗樂**と呼びます。また、演奏の形態により「管絃」と「舞樂」とに分けてその演奏技法が区別されました。さらに、多種の外来樂器は取捨選択され、樂團編成は小規模な室内樂形式に変わりました。このような外来樂舞の一大変革と同時に、日本人による作曲、編曲、作舞も盛んに行われ、ここに極めて纖細、優美な日本独自の雅樂が完成したのです。

(3) 歌物（催馬樂と朗詠）

大陸系の音楽の影響を受けて平安時代に作られ、唐樂器等の伴奏で歌われるようになった歌です。民謡を歌詞とする**催馬樂**と漢詩を歌詞とする**朗詠**とがあります。

なお、和歌を歌唱する「歌披講」(宮中の歌会始の儀などで行われています。)は朗詠と同時代に完成した音楽の一分野ですが、全く樂器の伴奏を用いることがなく、雅樂の中には入っておりません。

3 雅楽の演奏形態

雅楽には、「管絃」、「舞楽」および「歌謡」の三つの演奏形態があります。

(1) 管絃

大陸系の雅楽器で奏する器楽合奏です。現在では、もっぱら唐樂を演奏し、ほとんど高麗樂は演奏されません。いわゆる「三管両絃三鼓」の楽器編成で演奏します。「三管」とは笙、簫築および龍笛の三種の管楽器を、「両絃」とは琵琶および箏の二種の絃楽器を、「三鼓」とは鞨鼓、太鼓および鉦鼓の三種の打楽器を言います。

管絃では、管楽器が主な役目をします。すなわち、簫築が主旋律を奏し、龍笛が同じ旋律をやや装飾的に奏します。これに、笙が和音を付けます。打楽器はもちろんリズムを受け持ちますが、絃楽器も主としてリズム楽器として用います。

奏法は、舞楽の場合には活発に力強く奏するのに対して、管絃の場合には緩やかに纖細に奏します。

なお、歌謡のうち催馬樂と朗詠は、管絃の演目の中に入れて演奏することもあります。

(2) 舞楽

音楽とともに奏する舞で、歌に伴って舞う「國風舞」と、唐樂の伴奏で舞う「左方の舞」および主として高麗樂の伴奏で舞う「右方の舞」とがあります。

① **國風舞**は、装束も簡素で、舞い振りも素朴ですが、高雅で壯重なものです。歌の伴奏に和樂器と外来楽器を併せて用います。

② **左方の舞**は、原則として赤色の系統の装束を用います。舞人は、向かって左の方から進み出て舞台に登ります。伴奏は、通常、絃楽器を用いず、三管三鼓の楽器編成で演奏します。簫築と龍笛の旋律に合わせて舞います。

③ **右方の舞**は、原則として緑色の系統の装束を用います。舞人は、向かって右の方から進み出て舞台に登ります。伴奏は、左方の舞と異なり、笙を通常は用いず、龍笛に代わって高麗笛を、鞨鼓に代わって三の鼓を用います。絃楽器は、全く用いません。三の鼓と太鼓のリズムに合わせて舞います。

(3) 歌謡

雅楽器の伴奏で歌う声楽で、日本古来の原始歌謡に基づく「國風歌」と、大陸系の音楽の影響を受けて作られた「催馬樂」および「朗詠」とがあります。

① **國風歌**は、伴奏に和琴、神樂笛などの和樂器と簫築のほか、曲目により神樂笛のかわりに龍笛、高麗笛などの外来の管楽器を併せて用い(笙は、全く用いません)、笏拍子を打って、高雅に歌います。

② **催馬樂**は、伴奏に三管と両絃を用い、笏拍子を打って、俗調の和文を拍節的に歌います。

③ **朗詠**は、伴奏に三管だけを用い、閑雅な漢詩文を非拍節的に歌います。

歌謡は、いずれも句頭の独唱に続いて歌方の全員で齊唱しますが、管楽器は主奏者だけが演奏します。また、笙は、管絃や舞楽の場合に和音を奏するのとは違って、歌物の場合には旋律を奏します。

4 雅楽の文化的価値

雅楽は、千数百年の伝統を有し、世界で最も古い音楽文化財として貴重な歴史的価値を持つものであり、昭和30(1955)年、宮内庁式部職樂部の樂師が演奏する雅楽は国の重要無形文化財に指定され、樂師の全員が重要無形文化財保持者に認定されております。さらに、平成21(2009)年には、ユネスコ無形文化遺産保護条約「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に記載されました。このように雅楽は、今後伝承していくべき我が国の伝統文化として国際的にも認知されており、雅楽それ自体が発展し広るとともに、他の音楽・舞踊に影響を与えていく可能性を有しております。

樂 器

1 管樂器



2 絃樂器



3 打樂器



I 管絃
かん げん



II 舞 樂
くにぎりのまい

1 国風舞 (東遊)



さほうまい
2 左方の舞 (萬歳樂)



うほうまい
3 右方の舞 (仁和樂)





(青海波の袍の千鳥模様より)

発行 公益財団法人 菊葉文化協会

監修 宮内庁式部職楽部

この冊子は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。

